



TITLE:

倉敷天文臺通信

AUTHOR(S):

荒木, 健兒

CITATION:

荒木, 健兒. 倉敷天文臺通信. 天界 1931, 11(120): 233-234

ISSUE DATE:

1931-03-25

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/161640>

RIGHT:

ち其の時刻の天頂である。

又、十月二日午後八時なれば、丁度 XXI時が 南中線になる。そして前述の如く SS'線上 XXI時のところに南點を重ねて前の如くすればよい、而して如何なる場合にも北點は常に NN'線上に、南點は常に SS'線上にあらしめ、曲線が連続するように置いてゆけばよろしいのである。

最後に、本誌三十八號をお持ちにならない方々のために注意しておきたいのは、阪神より遠く西方の人は其の地の經度を 135° から引いて時間に換算し (1° は 4分) 午後十時三十分といふとき下關なれば赤經X時30分より16分前を押へる。東方なれば後を押へればよい。尚、阪神より北の人は緯度の差だけ NN'線を下へ、SS'線を上へ引きそれに従つて曲線を描けばよい。南の人は NN'線を上へ、SS'線を下へ引けばよろしい、又、大きくてもかまはなければ、大きなバラフィン紙に豫め連続した曲線を書いておけば便利である。

尚、一層精しく求めんには恒星時による。

倉敷天文臺通信

荒 木 健 児

「玉島通信」を中止しやうと思つてゐますと、微光流星で驍名ある 福知山の鹽見君が大いに禮賛せられます折柄、原名譽臺長の 特別な御厚意によりまして、滞在の上連続觀測を行ふことになりました。

倉敷天文臺の望遠鏡は、鏡面作成については天才的と言はれた彼の英國の故 George Calver 氏の手になつた 32cm の反射鏡で、花山天文臺の中村さんも激賞せられる程の立派な鏡面を持つてゐます。

觀測の方針と致しましては

1. 變 光 星 殊に10等以下の長週期及び 不規則變光星をえらび、觀測を集中させます。
2. 掩 蔽 殊に微恒星に向けられます。

以上の二方面は正は G. Calver 氏に 報いるためでありまして、その他

3. 太陽黒點 夜間の観測を主としますと太陽がおろそかになります
が、なるべくつとめてみたいと思ひます。

4. 遊星、小遊星、彗星 これ亦重要な方面であります。

肉眼観測の方面を見ますと。

5. 流星 流星課中國四國班委員として 小楨課長の御期待にそふた
めにも、彗星との關係からいつても、一部の 努力を拂は
ねばならぬ方面であります。

6. 黄道光及び對日照 天文臺の位置が 市中でありますから、満足な結果
は得られますまいが、何とか方法を取るつもりでゐます。

観測は夕方からはじめ、夜半をこえて曉に及んで 終り、正午までが睡眠
の時間になりますから、御來訪は午後の早い時刻に 願ひます。天候が悪い
場合は観測は出來ませんから、観測結果の整理や統計、その 他讀書研究が
許されます、單なる漫談も亦可なりではありますが、天文學上の 大問題で
論戦し、場合によつては切腹を覺悟で御來訪下さい。相互の 研究のために
よろこばしいことと思ひます。

天文臺は毎月二回（第一及び第三の土曜夕刻から）一般に 公開します。
その際は毎回は非天文學上の常識問題及び高尚な理論について 講話が行は
れます。會員諸氏は特に御出席のこと。公開日は これまで全く振はなかつ
たのは残念です。

經費にゆとりがつけば 寫眞の方にもどしどし手をのばしてみたいと思ひ
ます。その他にも計畫が澤山あります。

黄道光圖竝に黄道光及び對日照の観測用紙は 不鮮明の個所多くて相すみ
ませんでした。が、謄寫版印刷の専門家にかけて立派なものをつくらうと思
ひます。從來通り私から差上げます。

何卒一層の御教導を願ひ上げます。

（1931年2月10日記）